



第8回 法政大学・人間環境学特別セミナー ドキュメンタリー映画を見て、震災後の日本社会を考える

東日本大震災から2年半がたちました。法政大学人間環境学部は震災後の日本社会の姿について考える取り組みを続けています。人間環境学特別セミナー「とにかく考えてみよう」は、ドキュメンタリー映画を見て、教職員と学生、一般の参加者がともに議論する催しです。これまで原子力発電や再生可能エネルギーの問題を扱った作品を上映するとともに、監督や関係者を招いてパネル・ディスカッションを開催しました。第8回目の今回は、国際的なウラン鉱石採掘問題を追及したドイツのドキュメンタリー映画『イエローケーキ クリーンなエネルギーという嘘』（ヨアヒム・チルナー監督、2010年）を取り上げ、エネルギー問題についてもう一度考えます。また、本映画の字幕制作者である渋谷哲也氏をお招きして、われわれがドキュメンタリー映画を観る際に心得ておくべき事柄についてもお話をうかがい、議論していきたいと思えます。

『イエローケーキ クリーンなエネルギーという嘘』

上映会とディスカッション

（上映協力：渋谷哲也）

*** プログラム ***

15:30 開会

15:40 映画上映開始

17:30 休憩

17:45 講演——渋谷哲也氏（東京国際大学人間社会学部・ドイツ映画論）

18:15 ディスカッション——司会：辻英史（法政大学人間環境学部）

19:00 閉会

日時： 2014年1月11日（土） 15:30～

場所： 法政大学市ヶ谷キャンパス・ボアソナードタワー3階 マルチメディアスタジオ

入場料： 人間環境学部学生は無料、一般の方は300円（ただし、震災復興支援のため全額寄付します）

主催： 法政大学人間環境学部・人間環境学会（担当：辻、西城戸、武貞）

E-mail: tonikan@inter7.jp 03-3264-4909

※映画については、このチラシ裏面および公式ホームページを参照：

<http://pandorafilms.wordpress.com/yellow/>

※会場については大学HPを参照してください：<http://www.hosei.ac.jp/campus/ichigaya/ichigaya.html>

母なる大地から心臓をえぐり出してはならない
それは灰の詰まった瓢箪と化し
やがては世界を破滅に導く——（ホピ族の予言より）



3・11 後 原発廃止を決めたドイツ発！大きな第一歩を踏み出すために

『イエロー・ケーキ クリーンなエネルギーという嘘』は、原子力発電サイクルの“川上”＝ウラン採掘の裏に隠された真実を明らかにした作品である。オーストラリア・カナダ・アフリカのナミビア・旧東ドイツ等世界各地の採掘所を5年間に渡り丁寧に取材。処理不可能な放射性廃棄物の現状は見る者を驚愕させる。大ヒットした『100,000年後の安全』は放射性廃棄物の未来、いわば“川下”を取り上げたが、本作では、原発の燃料という最も“川上”の実態にメスを入れた。世界が隠ぺいし続けているウラン鉱採掘に潜む真実は、いかなる映画やテレビも凌駕する衝撃である。ウランが人と自然にもたらすものの実態を知って初めて、我々は新たなエネルギー創出への第一歩を踏み出せるのだ！

●日本におけるウラン採掘事情

鉄腕アトムの妹の名前に採用されたほど馴染み深い元素であるウラン。国内で発見されたウラン鉱床のうち、岡山県と鳥取県の県境の人形峠の鉱床では、実際に採掘がおこなわれウラン濃縮プラントも建設されたが、採算に合わないために採掘中止。2001年にはプラントも閉鎖。だが、ウラン残土が民家近くに放置され、その処理を巡る裁判は最高裁まで争われたことはあまり知られていない。また、東電をはじめとする日本企業は世界各地のウラン鉱山開発に出資し、国内の原発稼働用にウランを輸入し続けている。

●コメント

舞い上がる放射性の粉塵。それは一方では毒、そして一方では莫大なお金に結び付けられている。人間の欲望が放射能にまみれる現場を見よ。

鎌仲ひとみ（映画監督『ミツバチの羽音と地球の回転』）

原子力利用は、核分裂反応を起こさせる前に、
鉱山でウランを掘り出す段階から放射能汚染と被曝を引き起こす。

小出裕章（京都大学原子炉実験所助教）

核燃料は、まず鉱夫を被ばくさせ、地域の人々と自然を侵し、
原発で地球汚染を生み、最後に未来永劫の核のゴミとなる。

その穴を掘って埋め戻すが如き愚行が繰り返されるのだ。

飯田哲也（環境エネルギー政策研究所所長）